

事業名：アップビート音楽セミナー交流事業（十勝ークロアチア文化交流）

団体名：アップビート春期国際セミナー実行委員会

開催地：クロアチア共和国カシュテラ市

アップビート春期国際音楽セミナー実行委員長

ピアニスト・昭和音楽大学准教授

三谷 温

平成23年7月22日より29日まで、日本とクロアチア共和国の文化交流、日本・北海道の文化紹介、及び文化事業、芸術教育環境に関する意見・情報交換を目的とした交流事業を、クロアチア共和国カシュテラ市で実施した。クロアチア共和国はアドリア海をはさんだイタリアの対岸に位置し、その長い海岸線にはドゥブロヴニク、スプリット、トロギール等ユネスコ世界遺産に指定された魅力的な都市が点在し、特に夏のバカンスシーズンには世界中から多くの人々が訪れる。ドゥブロヴニク音楽祭、アップビート夏期国際音楽セミナーをはじめ多くの音楽イベントも開催されている。近年観光地として我が国でも脚光を浴び、テレビ、雑誌等で度々取り上げられ徐々にその知名度は上がって来ている。1991年の独立後に起きた悲慘な民族紛争を乗り越え、その後着実な復興を遂げ、社会基盤の整備等も進み、欧州連合（ユーロ）への加盟も正式に決まっている。

2003年、文化庁の初代「文化交流使」事業において筆者はクロアチア共和国で文化交流活動を行った。その後、同国で開催されている欧州有数のアップビート夏期国際音楽セミナーと提携して、北海道十勝で様々な芸術普及活動を実施して7年間経過した。今回は、クロアチア・日本両国の演奏家・音楽祭事務局等文化事業関係者の交流を通じて、両国の親善の深化をはかり、芸術文化普及の今後の取組みについて考える機会として渡航することとなった。

経済的なルートで現地へ向かうことにしたため、やや遠回りをしてモスクワ、ウィーン経由でスプリットへ向かった。7月24日の交流事業初日、場所は、カシュテラ市音楽学校。

コンサートで取り上げた主な演奏曲目は、ドミトリー・ショスタコーヴィッチ作曲 チェロソナタ ニ短調 作品40、フレデリック・ショパン作曲 スケルツォ 第2番 変ロ短調 作品31、クロアチアの作曲家マツの「エレジー（悲歌）」、及び、当該事業の為の委嘱作品、秋田和久作曲 ピアノ独奏のための作品「歩く男」（世界初演）である。スプリット音楽学校の講師・ピアニストから、秋田作品の内容、演奏ともに絶賛を得る等、好評裏に終えることが出来た。演奏者は、筆者（三谷温）、クロアチア出身の世界的チェリスト ニコラ・ルーツェヴィチ氏、十勝出身でアップビート春期国際音楽セミナー修了生であるピアニスト 伊藤夢里子であった。

引き続き、参加型交流事業・日本文化の紹介として、ワークショップを実施した。童謡を歌い、また北海道・アイヌの民族楽器「ムックリ」を紹介し、参加者に楽器を配り、米谷享子が中心となり指導を行った。コンサートと講演会の間に設けたこのワークショップは、終始笑いにつつま

れ、リラックスした和気あいあいとした雰囲気が創出され、大変有意義な企画であったと自負している。

同日の最後は、アップビート春期国際音楽セミナー実行委員会理事で、幕別町百年記念ホール横山渡館長による「十勝での芸術普及活動の取組みについて」講演であった。幕別町百年記念ホールの日本語の紹介パンフレットの写真を示しながら、英語、クロアチア語の通訳を介して実施した。

翌、25日には、同じ会場で意見情報交換会を行った。主たるテーマは「両国の音楽教育システムについて」で、出席はコーディネーターとして桶谷正剛と、同地のイワン・ピリスコフ氏、前述のニコラ・ルーツェヴィチ氏、三谷温であった。所謂学校音楽教育以外の音楽教育が公費によって行われている同国と、音楽実技教育は全て保護者負担している我が国の現状、十勝管内のコンサートホール数と演奏会実施頻度などについて、意見・情報交換が行われ、その結果、社会全体で音楽文化がどのように生まれ受け入れられているのかを、また行政の文化に対する姿勢・取り組みの違いが明らかになった。

「(クロアチアでは)音楽教育は主として公的な機関で行われており、音楽を学びたい子供達は普通小学校の他に音楽小学校へ通う。低学年の生徒は実技レッスン、ソルフェージュ、理論など1回30分の授業を計4回受講し、高学年になるとレッスン・授業時間が45分になり、科目数もアンサンブルや理論など加わる。希望するものはさらに4年間、各地方主要都市にある音楽高校へ進学し専門的な教育を受けることが出来る。専門家になることを決心した学生は音楽大学へ進学する。音楽大学卒業後は殆どの学生が、全国にある音楽学校の教師、演奏家など、音楽専門分野での仕事に就く。教育システムは充実しているが、楽器や、施設が十分に整備されていない」、「(日本では)音楽大学卒業生(若い音楽家)の活躍の場、需要が十分にはない。楽器・ホール等ハード面での整備は十分であるが、活用されていない場合が多い」等両国の状況や問題点が報告された。

24日夜には、チェロの講習会の成果発表会がカシュテラ市内の教会で行われた。受講生全ての演奏レベルは非常に高く、同国の教育システムの素晴らしさを実感することが出来た。我が国に彼らを招聘し、その演奏=教育システムの成果を多くの教育・行政関係者が聴く機会を設けることが出来れば、今後の我が国の芸術教育環境を考える上で有意義なものになると思われる。

演奏会終了後、カシュテラ市副市長歓談し、関係者より幕別町との姉妹都市の構想が提案され、今後具体的な内容等調査を行うこととなった。近年は日本人観光客の増加等で親日感情が強い国であるが、継続的な交流活動は未だに十分とは言えないとの意見も出された。来年度以降も継続して交流活動を行いたい旨の申し出もあり、音楽セミナー、その他文化交流事業の実施の可能性を今後検討することとなった。北海道十勝管内で開催している、音楽祭、セミナーに同国の若い優秀な演奏家を招聘し、一方十勝で開催しているアップビート春期国際音楽セミナー修了生を派遣し、現地の演奏家との共演機会を設ける、十勝管内で行われている弦楽実技指導の成果発表合同演奏会を将来的にクロアチアで開催する、芸術教育システムに関する情報提供を定期的に受け

る等、以上様々な意見・提案があった。

今回の事業が、将来の両国の交流・発展の礎になりえるものであったと確信するとともに、今後も関係各位のご理解・ご協力を賜りながら、芸術教育環境充実のため努力を重ねたいと考えている。

### 【旅程】

22（金）成田発 SU576 便にて Moscow 経由、SU263 便で Wien 着（泊）

23（土）Wien 発 OS745 便にて Split へ、Kastella へ移動

24（日）『公演・講演・ワークショップ』

25（月）『意見・情報交換会』、

26（火）Split 発 OS746 便で乗り継ぎのため Wien へ移動

27（水）Wien 泊

28（木）Wien より SU262 便にて Moscow 経由、

29（金）SU575 便にて成田着

